

平野村誌下巻目次

第五 岡谷地方製絲業發達の沿革

第一章 總 説	一
第二章 信州蠶絲業の由來	二
第三章 明治以前に於ける本村蠶絲業の沿革附綿打及び小倉織足袋裏製造の沿革	八
第一節 本村蠶絲業の由來	一
第二節 明和年間諏訪藩初めて繭賣買に運上制度を定む 附その頃の一、二の記録	三
第三節 文化元年の登せ絲口錢規定	六
第四節 諏訪藩の桑樹栽培奨勵	九
第五節 蠶飼の狀態	三
第六節 生絲生産の狀態	三
第七節 登せ絲の販路及び取引の狀態	三

第八節 糸種の移入及び蠶種製造業	毛
第九節 本村絲商人外國貿易に進出す	四
第十節 座織製絲器の移入	五
第十一節 絲口錢運上定の變遷	六
第十二節 謙訪藩の絲會所開設	七
第十三節 編 打	七
一、綿打の業態 (二二)	八
二、綿打に關する藩の制度及び本村綿打業の沿革 (七)	八
三、此地方綿打業興亡の因由に就て (八八)	八
第十四節 小倉織及び足袋裏製造の沿革	九
一、小倉織 (九)	九
二、足袋裏製造 (一〇〇)	九
第四章 明治以後に於ける本村製絲業の發達	一〇
第一節 總 說	一〇
第二節 事業一般の沿革	一〇
第一項 明治初年の狀態	一〇
一、明治新政府と蠶絲業 (一〇三)	一〇三
二、明治初年の本村製絲業 (一〇四)	一〇四

第二項 生絲改會社の成立………二九

一、生絲取締規則及び生絲改會社規則の制定（二〇元）

二、諏訪生絲改會社の設立（二三）

第三項 器械製絲起る………二五

一、我國に洋式製絲法移入さる（二五）

二、上諏訪に深山田製絲場起る（二六）

三、松代六工社

のこと（二七）

四、本村に器械製絲始まる（二八）

五、中山社の設立（五二）

六、本村内器械製

絲の普及（二九）

第四項 製絲結社起る………二七〇

一、本村に製絲結社盛に設立さる（二七）

二、皇運社（二七）

三、確榮社（二七）

四、協

力社（二七）

五、開明社（二八）

第五項 共同揚返始まる………二七一

一、開明社の共同揚返場成る（二九）

二、共同揚返場の増加と諸結社の離合（改良社、平野社、矢

鳥社、金山社、明進社、信英社、龍上館、西白鶴社）

第六項 企業組織の推移………二七二

第七項 製絲經營の村外發展………二七三

第八項 同業組合の變遷………二七三

一、蠶絲業組合（三四） 二、諫訪生絲同業組合（三五） 三、製絲同盟（三五）

第九項 村内製絲工場分布狀態の變化

第十項 皇族方の御成 二五二

一、伏見宮貞愛親王殿下（三三） 二、伏見宮博恭王殿下・同妃殿下（三三） 三、東久邇宮稔彥王殿下（三三） 四、華頂宮博忠王殿下・伏見若宮博信王殿下（三三） 五、淳宮雍仁親王殿下・高松宮宣仁親王殿下兩皇子殿下（三四） 六、久邇宮邦彥王殿下・同妃殿下・良子女王殿下・信子女王殿下・智子女王殿下（三四五）

第十一項 製絲業者の米國視察と米國紡業者の來岡 二五六

一、蠶絲同業組合中央會派遣第一回米國紡業視察團の渡米（三七） 二、第一回米國紡業協會派遣員一行の來岡（三八） 三、第二回蠶絲業同業組合中央會派遣米國紡業視察團の渡米（三九） 四、第二回米國紡業協會派遣員一行の來岡（三九） 五、日米生絲格付技術協議會出席の米國紡業協會派遣員一行來岡（三七）

第十二項 村内釜數職工數及び生産高等の增加 二五二

第十三項 業績（損益其他）の大要 二五〇

第三節 各事項別變遷の大要 二五七

第一項 工場敷地及び建築物……………三〇七

第二項 原料繭保全法……………三八

一、乾繭の由來（三〇八）二、殺蛹（三〇九）三、乾燥（三一〇）四、貯繭（三一一）五、選繭（三一〇）

第三項 製絲器械設備及び繰絲法……………三三一

第四項 生絲整理及び検査法……………三五七

一、揚返（三五七）二、結束（三五九）三、生絲検査、附生絲の品位（三七一）

第五項 燃料……………三八三

第六項 原動力……………三九九

第七項 製絲用水……………四六六

第八項 職工……………四〇四

一、工女出身地（四〇五）二、工女の年齢（四〇九）三、工女勤続年数（四一〇）四、賃銀（四一三）

五、工女募集及びその雇傭契約（四一三）

第九項 工場生活の實際……………四八六

一、製絲工場の作業組織とその職制（四八八）二、職工の居住（四九一）三、職工慰安施設並に福利

増進施設（四九二）四、職工健康保全施設（四五九）

第十項 原料繭の仕入.....

四五三

一、仕入地の擴大並にその數量の增加（四五五）

二、仕入並に輸送の狀態（四五四）

三、購繭員及び
乾繭夫其他の調査（四五五）

四、乾繭の移入及び岡谷乾繭委託株式會社の創立（四五七）

第十一項 生絲生産高と生産費.....

四五九

一、生絲生産高の増加（作業日數の増加、繰絲能率の増進）（四五八）

二、生産費（四五六）

第十二項 輸出生絲の取り引.....

四九二

第十三項 國用製絲及び副產物の取り引.....

四九三

一、國用生絲及び屑物の產額とその仕向先（五五九）

二、國用生絲の取引（五五五）

三、副產物の取
引（五五三）

四、諏訪繭商同業組合（五五五）

第四節 座織製絲.....

五六八

一、變遷並に業態の大要（五五八）

二、諏訪西部座織製絲組合（五五三）

三、座織製絲工女調査（五五四）

第五節 製絲金融.....

五六七

一、製絲金融の特性（五六七）

二、本村に於ける變遷の大要（五五九）

第六節 繭倉庫業.....

五六八

第五章 本村附近製絲業の發生及び發達に關する原因に就て

五六二

第一節 文献に見えたる各種の所論

五三

- 一、牛山才治郎氏著「日本の製絲業（一名製絲家の未來）」（五五三） 二、明治四十三年六月諭訪夕報論説（五西） 三、明治四十四年やまと新聞所載尾澤琢郎氏所説（五四） 四、田中阿歌麿氏著「諭訪湖の研究」（五五） 五、住友銀行生絲資金臨時調査委員會調査資料第二輯「製絲事業の概觀」（五五） 六、諭訪中學校教諭三澤勝衛氏の「諭訪製絲業發達の地理學的意義」（五七） 七、上田蠶絲專問學校教授早川直瀬博士著「製絲經濟學」（五八） 八、大倉高等商業學校教授安堵泰吉郎氏「我國生絲業に於ける產業革命の發端」（五九） 九、田中啟爾氏著「我等の國土」（五九）

第二節 本村地方製絲業界の有力者並に古老の所見

五六